

新規事業採択時評価結果（平成19年度新規事業化箇所）

担当課：近畿地方整備局都市整備課
担当課長名：田雑 隆昌

事業の概要

| | | | | | |
|---|-----------------------|-------|-----------|------|-----|
| 事業名 | 伊丹飛行場線 | 事業区分 | 街路 | 事業主体 | 兵庫県 |
| 起終点 | 伊丹市寺本4丁目～ 伊丹市昆陽6丁目 | 延長 | L=0.55km | | |
| <p>事業概要</p> <p>本路線は国道171号から伊丹市中心市街地、尼崎港川西線を経て大阪池田線まで接続する阪神間の東西幹線道路である。伊丹飛行場線は全延長5.1kmのうち、3.7kmは完成、0.85kmが事業中であり、事業中区間についてはH20年度に完成する予定である。未着手である本工区0.55kmをH19年度より事業着手し、H24年度の全線完成を図る。</p> <p>事業の目的、必要性</p> <ul style="list-style-type: none"> 本路線及び周辺路線の慢性的な渋滞解消を図るには当該工区の4車線化が必要不可欠であるため、早急に事業着手する必要がある。 災害時には市役所等のシビックゾーンへの避難路としての機能を発揮できる。 国道171号と伊丹市中心市街地、尼崎港川西線及び大阪池田線へ接続することにより地域間の連絡を強化できるとともに、伊丹市の中央部の都市軸を形成することにより、地域の活性化を図ることができる。 | | | | | |
| 全体事業費 | 2.5億円 | 計画交通量 | 28,800台/日 | | |
| <p>事業概要図</p> | | | | | |

関係する地方公共団体等の意見
伊丹市の街路整備プログラムに前期(H19年度まで)着手路線に位置づけられ、広報誌により公表されている。

事業採択の前提条件
便益が費用を上回っている。
円滑な事業執行の環境が整っている。
(兵庫県社会基盤整備プログラム、伊丹市街路整備プログラムでの位置づけ有)

事業評価結果

| | | | | | | |
|--------|---|---|--|---|--------------|--|
| 費用対便益 | B/C | 5.4 | 総費用：1.7億円 事業費：1.7億円 維持管理費：0.00億円 | 総便益：9.1億円 走行時間短縮便益：89億円 走行費用減少便益：2.2億円 交通事故減少便益：0.20億円 | 基準年 平成18年 | |
| | 感度分析の結果 | 交通量変動 | B/C=4.7 (交通量 -10%) | B/C=5.8 (交通量 +10%) | | |
| | | 事業費変動 | B/C=4.8 (事業費 +10%) | B/C=5.8 (事業費 -10%) | | |
| | 社会割引率変動 | B/C=4.2 (社会割引率 +1%) | B/C=7.0 (社会割引率 -1%) | | | |
| 事業の影響 | 自動車や歩行者への影響 | 評価項目 | 根拠 | | | |
| | | 渋滞対策 | 周辺路線の慢性的な渋滞解消を図るには当該工区の4車線化が必要不可欠である。 【渋滞損失時間の改善】約 8.8万人時/年 約 0万人時/年 【1kmあたり(台kmあたり)渋滞損失時間】約 16.1万人時/年km 約 0万人時/年km 【渋滞度曲線】 【その他の特徴】 | | | |
| | | 事故対策 | 広幅員の歩道の設置により、歩行者・自転車等の安全性の向上を図る。 【死傷事故率】(死傷事故率比(県内平均比)) 死傷事故率:221人/億台km(H12~16年) (事故率曲線における位置:) 【その他の特徴】 | | | |
| | 歩行空間 | 両側歩道(幅員3.0m)を設置し、セミフラットとすることにより児童、高齢者及・障害者等に配慮している。 | | | | |
| | 社会全体への影響 | 住民生活 | 本工区に隣接する昆陽東工区とあわせて本工区を整備することにより、全線完成し伊丹市域の交通環境の改善を図ることができる。 | | | |
| | | 地域経済 | 国道171号と伊丹市中心市街地、尼崎港川西線及び大阪池田線へ接続することにより地域間の連絡を強化できるとともに、伊丹市の中央部の都市軸を形成することにより、地域の活性化を図ることができる。 | | | |
| 災害 | | 早期に整備を行うことにより、災害時には市役所等のシビックゾーンへの避難路としての機能を発揮できる。 | | | | |
| 環境 | 車道は低騒音舗装、歩道は高木植樹と透水性舗装を行い、沿道環境の改善を図ることができる。電線共同溝の整備により都市景観の向上を図ることができる。 | | | | | |
| 地域社会 | 阪神間の東西道路の整備により、地域内の連携・交流を図る。 | | | | | |
| 事業実施環境 | 兵庫県の社会基盤整備プログラム及び伊丹市の街路整備プログラムに前期(H19年度まで)着手路線に位置づけられ、広報誌により公表されている。 | | | | | |

採択の理由

便益が費用を上回っているとともに、県、市の各種計画に位置付けられているなど、円滑な事業執行の環境が整っている。
また、地域間の連絡を強化できるとともに、伊丹市の中央部の都市軸を形成することにより、地域の活性化を図ることができるなど道路の必要性、効果が高いと判断できる。
以上より、本事業を採択した。

総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。